

研修講座への提言

4年ほど前、はじめて市岡のボランティア研修を受けました。内容は他の30の日本語を教える団体の代表者の方、国語の教師の日本語の文法の講義など、なかなか面白い内容のものでした。

この研修を受けた後に、市岡でのボランティア活動をするかどうか、確認されました。市岡の内容が全くわからない状態でしたので、戸惑いましたが、登録しました。今考えると、市岡のボランティアの説明会を先に開いてもらえば、戸惑いはなかったかなと思います。

提案としては、無料説明会を開き、主旨に賛同すれば研修会に申し込むというやり方ではどうでしょうか。そうすると、お金を払う意味や市岡のルールや、学習者に日本語を教えるだけでなく、学習者を担当することができなくても、市岡での仕事がいまいちとあるというのを理解してもらえないではないでしょうか。研修費用が市岡の運営費になっていくというところも説明できずし、その使途も明白に出来ると思いません。

研修の時には、新しいボランティアも決まっているので、班

別のミーティングもできるし、古いボランティアの学習内容や、やり方の説明や、トラブル解決方法の伝授、など現在の市岡での内容に沿った話ができるのではないのでしょうか？

市岡は学校の役割だけではないと確信しています。友達のない外国人就労者、残留孤児、自分の意思ではなく、両親などの都合で来日せざるを得なくなった子供たち、そんな人達の抛り所となればと思っています。

もちろん、日本語を覚えることは一番重要かもしれませんが、でも、その前に日本を好きになってほしいと思うのです。そのためには、日本語を教えることができるければボランティアを休むという人を、増やしたくないのです。

市岡の存在する意味、市岡が必要とする外国人がいる、そういうことをわかった上で登録してもらうには、無料説明会でちゃんと説明する必要があると思います。

今年で日本語教室は10周年です。30としての団体を大きくすることより内容を充実させる11年目にしたいものです。

(教務班 木村博美)



長浜事件に思う

今年の2月に滋賀県の長浜市で痛ましい事件が起こったことは、皆さんも記憶に新しいと思います。幼稚園児の母親が、子どもの同級生の園児2人を殺害したという恐ろしい事件でした。そして、その犯人の母親が中国から嫁いできた女性であったというのを知ったとき、まず私が感じたことは、「彼女のそばに市岡みたいな組織があったら」ということでした。

彼女が近所から孤立し、親しい友人もいなくなったであろうことは想像に難くありません。言葉の壁、文化や習慣の壁が、彼女の周りにはあったことでしょう。そういうところから、彼女は精神に障害を来たし、このような恐ろしい犯罪を犯してしまったのかもしれない。

もちろん、彼女のとった行動は決して許されるものではありませんし、弁護する気もありません。しかし、彼女の抱いていたであろう孤立感や疎外感は、日本で暮らす外国人のほとんどが持っているものではないでしょうか。

まだまだ、日本の社会は外国人にとって、暮らしやすい社会であるとは言えません。その人たちが、ほっと一息つけるところ。「ここに來たら心が和む」と言ってもらえるところ。市岡はそういう場所であってほしいと思います。

週に1回来るだけで、その人たちの孤独や孤立が癒されるとは思いません。でも、市岡は何らかの助けになることはできるでしょう。

ボランティアは、ただ単に、日本語を教えるだけではなく、地域社会で孤立しがちな外国人にとっての、よき相談相手、パートナーであってほしいと思います。

留学生や研修生と違って、結婚等で日本に暮らすことになった人たちの社会は非常に狭いです。これは日本人についても言えるかもしれません。結婚して家庭にいる女性にとって社会は閉ざされています。でも、日本人女性には、近所の友人、学生時代の友人が存在します。新しく友達を作ることでもそれほど難しいことではありません。しかし、言葉も通じない外国で一人取り残された外国人妻の孤独を想像してみてください。

市岡のみなさんには、そんな彼女たちのよき友人、頼りになる知人であってほしいと思います。市岡には大勢の仲間がいます。みなさんが、学習者さんからさまざまな相談を受けたとき、自分で解決できなくても、市岡で誰かに相談してみてください。きっと答えが見つかると思います。市岡のメンバーだけで解決できない場合でも、その問題はどこへ持っていったらよいか、ルートを知っている人、つながりを持っている人は必ずいます。学習者さんたちの問題を解決するところまでできる必要はありません。そのための手はずを整える役割をボランティア

アさんたちは担ってほしいと思います。もう一度言います。みなさんが彼女(彼)らのよき相談相手になってくださること、市岡が彼女(彼)らにとっての心安らぐ場所でありつづけることを、心から願います。(2班 札葉正隆)

投稿特集⑤

お茶とお花

趣味でお茶とお花を、教えてください。もし、日本語教室で可能でしたら、和室でなくても、テーブルで簡単に、お茶と和菓子の頂き方を、外国の人に教えてあげたいです。(4班の水原由美)

投稿特集⑥

日本語教室への提言

I. ボランティアと学習者のマッチングについて

担当する学習者を募集するボランティア用に、名前・班を記入するシートを作ったかどうかでしょう。1階受付に置き、日本人ボランティアの方が来たときに記入してもらおうようにしたらいいと思います。

II. 研修会について

2月の研修会はなくして学

習日にあててほしいです。研修費は単に年会費として徴収したらいいのではないのでしょうか。(1班 田中里佳)

投稿特集⑦

護身術

私は合気道柔道の有段者です。ですから、護身術くらいしか教えてあげられませんが、希望があれば、ミニ教室を開催します。(教務班 小濱光市)

編集後記

今号は投稿特集として、会員の皆さんからの投稿を募集しました。10周年を経て、11年目を迎える日本語教室のあり方に、いろいろな提言がでてきました。理事会等で、これらの発言を検討し、よりよい体制を作っていけたらいいなと思います。

日本語教室 2学期は9月1日(金)から。
ボランティアミーティングは8月25日(金)です。